

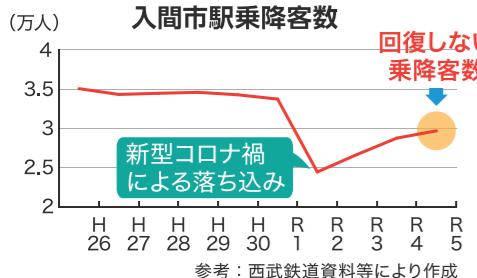
# 入間市議会議員 内村 ただひさ

**市政レポート  
情熱人** 特集号 vol.20

入間が好きだから  
このまちをよくしたい!

## ご挨拶

新型コロナ禍の真っ只中、2期目はスタートしました。その間、内外の政治経済情勢や地球環境の変動は物価高や災害など私たちの生活にも影響を及ぼしています。困難な時代ですが、雲間に光も見えています。地域や暮らしを照らす灯を絶やさず、次の世代につないでいける様、私は課題に挑んでまいります。



## 埼玉県観光入込客 市町村ランキング

順位	市町村	観光入込客数合計
1位	越谷市	51,294,237
2位	さいたま市	22,982,039
3位	所沢市	8,240,677
4位	川越市	6,576,000
5位	入間市	6,378,188

資料：埼玉県観光入込客統計

## いるまんなかさんぽ

中心市街地  
活性化の促進

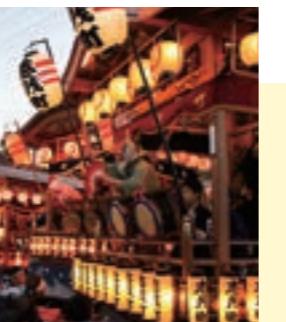
商工者と市民が一体となり、地域経済の活性化と、住民同士の交流を図る企画です。入間市中心市街地活性化事業として、市の支援が行われています。実行委員長として地域の一員として、商店街、商工会、地域の皆さんとともに運営に携わりました。



## [特集号目次]

- P2 コミュニティ 防災 地区センター始動 受援計画を策定しています
- P3 行財政改革 子育て 厳しさの増す財政運営 こども自転車教室 ほか
- P4 環境 振り返って 間伐材を活用しています おまつりの復活 など

## おまつりの復活



企画委員長として、駿河台大学と連携し学生の皆さんにも参加いただきました。

## 内村ただひさ プロフィール

昭和39年入間市(扇町屋)生まれ▶豊岡小、豊岡中、県立狭山高卒▶入間市議会議員(現)▶入間市議会副議長(前)▶埼玉西部消防組合議会副議長▶(一社)入間青年会議所第26代理事長▶入間市環境まちづくり会議会長▶入間市社会教育委員▶入間市立扇小学校PTA会長▶入間市立向原中学校PTA会長▶向原中学校区青少年健全育成推進会会长▶入間わんぱく相撲推進会議(現)▶入間市郷土芸能連合会副会長(現)▶おとうろうまつり企画委員長(現)▶奈賀町はやし連代表(前)▶扇町屋第二区祭典副委員長▶扇町屋二区防犯推進委員会顧問▶アポポ商店街振興組合顧問▶入間航友会入間支部副支部長(現)▶南三陸町の復興を支援する入間の会▶いるまんなか散歩実行委員会委員長▶霞川をきれいにする会会長▶オーシャンキッズ俱乐部副代表理事▶入間キッチングークラブ監事▶株式会社小松屋専務取締役

WEBサイトにて活動報告配信中!

## 内村ただひさ後援会

入間市扇町屋 1丁目 3-15

TEL 080-4111-0613  
FAX 04-2962-4534  
E-mail uchimura@tadahisa.net

<https://tadahisa.net>  
内村ただひさ 検索



や西川材の間伐材が用いられています。加治丘陵の設置を行っています。小さな取組みですが、この様な積み重ねを大切にしたいです。



河川敷



商店街

霞川をきれいにする会によって設置されました。川を守ることは治水だけでなく人の憩いを守ることもあります。また、通行者の安全を守るために、腐食の進んだ看板の撤去作業を会の皆さんと行いました。

## 健康推進クラブ



写真は市内の健康推進クラブにご招待いただいた際のものです。地域のつながりと日頃の活動や運動の積み重ねは、生きがいと健康の増進に重要です。市のサポート・施策を後押ししていきます。



## こども自転車教室

これまで自転車と地域との融合を訴え、その具現化に向けては杉島市長や専門団体などの皆さんとともに取り組んできました。令和 5 年には自転車活用まちづくり条例も制定されました。



## 子育て

自転車は活用もさることながら、まず交通安全が大切です。特に子どもが安心して地域の交通社会に交わるよう、市内外の自転車店・団体に協力をお願いしながら、子どもの自転車教室を実現してきました。今後は保育園や幼稚園での開催も推進していきます。

## いるまんなかこども会議

入間市の中心市街地を舞台に、子どもたちが各店舗や施設などをめぐり対話を通じて、子どもの視点で商店街の在り方を提案してもらいました。私も講師として参加させていただきました。



## 育てよう!

### これからの中間のチカラ

**つなぐチカラ** コミュニティ 文化  
「きずな」と「仕組み」で地域の活力を。

**温もりのチカラ** 福祉 子育て  
あらゆる人に「希望」の灯を。

**支えるチカラ** まちづくり 交通  
くらしが潤う空間づくり。

**創るチカラ** 産業 雇用  
入間の魅力を結んで、広げる。

**変えるチカラ** 行財政改革  
税に甘えない「かせぐ」行政。

**守るチカラ** 防災 環境  
災害に強く、地球にやさしく。

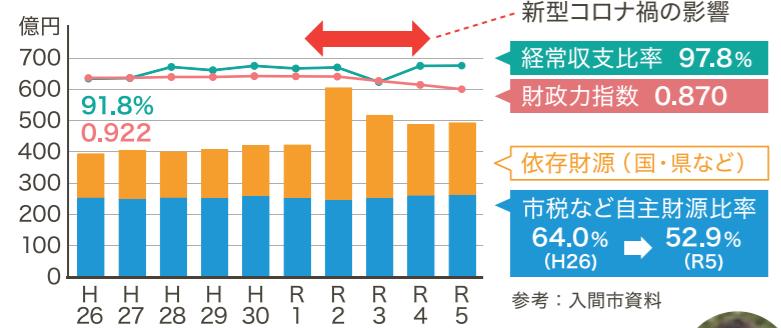
詳しいビジョンはこちから!



1期目より「かせぐ行政」を掲げ、皆さまから預かる税や、国や県からの依存財源だけに頼らない、入間市独自の歳入手段確保と「営業活動」の必要性を訴えてきました。市議の立場として、新しい歳入手段を模索し、市議に危機を感じています。令和 5 年度は決算委員長として市の財政運営に危機を感じています。市議の立場として、新しい歳入手段を模索しますが、市での工夫や営業努力により一歩ずつ実績を重ねています。

人口減少社会の進展とともに税収は減る一方、福祉などの必要な費用は増える見込みです。市でも公共施設マネジメントをはじめ行財政改革を進めていますが、市の財政は厳しさを増しています。施策としては企業版ふるさと納税などの直接的なものや企業誘致など間接的なものが挙げられます。しかし、皆さまから預かる税などが挙げられますが、市での工夫や営業努力により一歩ずつ実績を重ねています。

## 財政・歳入の推移



## 議会活動（2期目）

**一般質問** 食品ロス削減に向けた取り組み / 防災に関する都市間連携 / 市道幹 8 号線(町屋通り)未整備区間ににおける歩道整備 / 入間市駅前側留保地の活用 / 廃棄物減量・削減の取り組み / イツモ防災「命を守る三つの自助の取組み」/ 防災士・防災に関する資格者 / 学童保育室 / 災害時の電源確保 / スタートアップ支援(企業誘致から起業家の育成) / 入間のパーカス / 加治丘陵の公有地化 / 災害時の飲料水確保 / 行政運営と本市における自治会 / 行政運営と各地域団体主催のイベント / 中学校における部活動の現状と課題 / 地区センター開設から 1 年経過し、現時点における総括 / 市政運営と今後のビジョン・継続した市政への取組み / 入間市自転車活用まちづくり条例 / 地区センター図書室・移動図書館の活用の現状 / 災害時支援体制の確立



## 人口推計



## “かせぐ”行政

- 直接型
  - 企業版ふるさと納税
  - クラウドファンディング
  - ネーミングライツ など
- 間接型
  - 新産業団地への企業誘致
  - アンテナショップの開設
  - 中心市街地活性化 など

人口が減少する中では、財政だけでなく新しい住民自治や地域のあり方も考えていく必要があります。

**委員会など** 市議会副議長 / 総務常任委員会委員長 / 福祉教育常任委員会委員長 / 決算特別委員会委員長 / 議会防災検討委員会委員長 / 公共施設最適化検討委員会副委員長 / 埼玉西部消防組合議会副議長

## コミュニティ

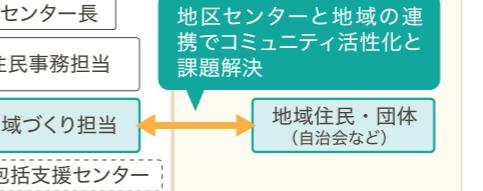
公共施設マネジメント事業計画を踏まえ、令和 5 年 4 月から地区センターがスタートしました。市内 9 地区内の 6 つの機能を備えた各地区の拠点となる施設として整備が図られています。

## 地区センターの機能

- 支所機能
- 公民館機能
- 自治振興支援機能**
- 防災拠点機能
- 福祉総合相談窓口機能
- 地域包括支援センター

自治会の支援、地域課題などの相談、地域コミュニティの推進、地域団体間の連携を図る会議体の設置・支援

## 地区センターの体制



## 地区センター(扇町屋)

支所機能など市民の利便性向上の一環で、地区センターの有効活用によって、地域の課題解決やコミュニケーションづくりを促進していきたいと考えています。地区センターには自治振興機能を備えることが定められていますが、自治会などの地域の手と地区センターが協働していく形が理想的です。そのため、

自治会の加入率向上も重要です。地域に暮らす人の困りごとに寄り添い、地域の課題を解決していくためには人ととのつながりこそが大事です。コミュニティの活性化とセンターの機能とが効果を出していく仕組み。制度づくりも不可欠です。そのためには市の権限や財源を移譲していくことも必要と考えます。市議会でもこの点を質問し、杉島市長からも前向きなお考えを伺うことができました。市と連携して地域のつながりづくりに取り組んでいきたいと考えています。

## イツモ防災をはじめましょう



### ① 家具の固定

転倒を防止し安全なおうち

### ② 災害用伝言サービス

非常時の連絡方法を決める

### ③ 3日分以上の水・食料備蓄

ローリングストックの実践

もっと詳しく

地震への備えを「特別なこと(モシモ)」ではなく、「イツモ」の生活の一部として当たり前のことへ。命を守る3つの取組みを実践しましょう。



ゲリラ豪雨による水害なども増えています。人と人のつながりが防災や安全を高めます。



ゲリラ豪雨による水害なども増えています。人と人のつながりが防災や安全を高めます。

## 防災士資格の取得を後押しへ

NPO 法人日本防災士機構が認定する資格で、災害への備えと対策に関する知識や技能を有する人に認証されます。

地区センターに防災機能が設けられるにあたり、防災士の配置を市にお願いしました。既に各地区センターには防災士資格を持つ職員もいます。資格を持つことで意識も高まりますので、今後は地域での普及や取得の支援も図っていきます。



## 防災

受援計画とは、大規模災害が発生した際に、被災自治体が受け入れの体制(受援体制)が整っていないなかで、災害協定の締結が進んでいますが、協定があつても支援を受け入れる体制や段取りがなくては、せっかくの協力が無駄になり、災害の拡大阻止や被災者への支援にも悪影響を及ぼしかねません。また、市の業務継続計画(BCP)の見直しも急務です。現在、市でも市内外の団体・企業との多様な協定が課題となり、私が支援活動に携わったことがあります。東北の自治体でもそれにより問題がじてきました。

現在、市でも策定や検討を進めているところですが、今後は個々の災害協定をネットワーク化し強固な仕組みにしていくことも働きかけていきます。

## 受援計画を策定しています